

むかしむかし  
遠くヨーロッパから  
嵐に遭った南蛮船が  
天草下島の羊角湾に  
流れ着いたことも  
あるという...

河浦は  
ここから始まった  
天草独特の  
歴史と文化が残るまち

まだ知らない歴史を  
深く知ること  
遠く昔の人々の  
想いを感じることで  
見えてくる何か  
あるかもしれません

これは  
ふるさと河浦を  
もっと好きになってもらいたい  
河浦町の人々が  
作ったマップです

河浦の人が  
つくった  
マップ

We love Kawaura

# あまくさ 河浦 歴史と文化 探索マップ

天草・河浦は、天草下島のくびれたところ、  
羊角湾を囲むまち。  
約450年前、遠い異国からこの入江に  
様々な文化を乗せた南蛮船が  
やってきました...



1705年に肥後国阿蘇宮より分祀された神社。  
今富の潜伏キリシタン取り締まりの  
舞台となった場所でもあります。



フェリエ神父  
フェリエ神父は民家を借りて  
孤児達を収容していましたが、  
明治20年、根引山を開墾して  
孤児院(子部屋)を  
開設しました。

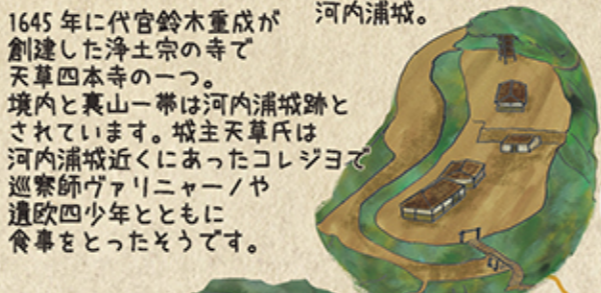


山ば越えて  
崎津教会と  
大江教会は  
行ったり  
来たり  
来たり  
しよったと。



隣町にある大江教会に  
赴任したガルニ神父が  
崎津教会を兼任する際、  
布教活動を行うため  
往復した峠道が  
「神父道」。

今の崎津教会が  
建つ前の聖堂は  
わしが建てました。  
1888年でした。



1645年に代官鈴木重成が  
創建した浄土宗の寺で  
天草四本寺の一つ。  
境内と真山一帯は河内浦城跡と  
されています。城主天草氏は  
河内浦城近くにあったコレジヨで  
巡察師ヴァリニャーノや  
遺欧四少年とともに  
食事をとったそうです。

キリスト教伝来とともに  
南蛮文化が栄えた中世の、  
天草下島南部を治めた  
天草鎮尚(ミゲル)  
久種(ジョアン)の  
河内浦城。



あまくさ  
しげおと申す。

【市指定建造物】轟橋

【市指定天然記念物】25  
薬師寺のナギ



あまくさ  
しげおと申す。

【市指定建造物】23  
厳戸山観音寺の板碑



宣教師養成のための大学校、  
天草コレジヨ跡地と推定されています。  
フロイスの日本史には  
「家屋につなげてコレジヨを建てた」  
と書いてあり、天草内のほかの箇所でも  
寺のあったところに教会があるなど  
しており、可能性が高いと  
思われます。

Fondo  
至 本渡



Amacusa

大江教会  
天草ロザリオ館

ガルニ神父

【国選定重要文化的景観】  
天草市崎津・今富の文化的景観

4 根引の子部屋

畳敷きになっとっとは  
全国的にも珍しかったです。



設計は  
鉄川与助

3 今富神社

江戸時代に  
「絵踏み」があった  
庄屋役宅跡に建て  
たかったんです。

5 神父道

河内浦城跡と  
崇園寺

13 安養寺

15 信福寺

17 お大師様と  
七鬼神様

19 薬師堂の石塔群

20 宗徒様の  
供養塔

21 河浦は、ほかに指定文化財など多数点在しています。

22 古江大神宮

23 産島八幡宮

Saxinocci

2 崎津諏訪神社

1 崎津教会

7 海上マリア像

9 アルメイダ上陸地

10 天草コレジヨ館

11 古江大神宮

12 産島八幡宮

14 安養寺

15 信福寺

16 下田城跡と  
天草氏歴代墓地

17 お大師様と  
七鬼神様

18 竜王神様



河浦の人が  
つくった  
マップ

2 崎津諏訪神社

1 崎津教会

7 海上マリア像

9 アルメイダ上陸地

10 天草コレジヨ館

11 古江大神宮

12 産島八幡宮

14 安養寺

15 信福寺

16 下田城跡と  
天草氏歴代墓地

17 お大師様と  
七鬼神様

18 竜王神様

8 琉球王使節船  
漂着地

6 遠見番所跡

30 鬼塚古墳

22 六郎次山

24 貨祭石産地

26 産島八幡宮例祭

23 ヘゴ自生地

25 薬師寺のナギ

21 河浦は、ほかに指定文化財など多数点在しています。

22 古江大神宮

23 産島八幡宮

日本の伝統宗教と  
潜伏キリシタンの共存  
という独特の文化的伝統を  
あらわしている神社です。

海上から  
見て欲しか〜。

ココから河浦名物  
「杉ようかん」は  
伝わったってばい。

私がはじめて  
天草にキリスト教を  
伝道しました

15世紀に、ドイツ人の  
グーテンベルクさんが、  
発明した活版印刷機の  
複製が展示してあります。

葡萄酒の絞り機が  
ヒントなんだって〜

縁結びの神様と  
云われています。

戦後までは、  
満月に男女でお参りする  
お祭りがあったらしい。

よかね

24 貨祭石産地

26 産島八幡宮例祭

23 ヘゴ自生地

【天正遺欧少年使節団】  
各地のセミナリオ(キリスト教の小神学校)から選ばれた4人の少年は、  
わずか12-13歳でヨーロッパへ渡り、キリシタン大名大友氏の手紙を  
携えてローマ教皇に面会し、大きな歓迎をうけました。ヨーロッパ各地の  
教会を視察、リスボンで西欧の高度な印刷技術を学び、グーテンベルクの  
印刷機を持ち帰りました。その後4少年はコレジヨに学び、棄教した  
千々石ミゲルを除いた3人は司祭に叙階され、禁教化の下、信者を助まし  
続けました。

中浦ジュリアン  
伊東マシヨ  
原マルチノ  
メスキータ神父  
千々石ミゲル

巡察師  
ヴァリニャーノ

巡遊  
バス停

1507年 伴天連追放令

1591年 加津佐よりコレジヨ

1597年 修練院が移設

1614年 徳川家康の

1637年 天草島原の乱

1805年 天草島原の乱

1873年 禁教令が解かれる

1934年 現在の崎津教会が建つ

|       |            |
|-------|------------|
| 1507年 | 伴天連追放令     |
| 1591年 | 加津佐よりコレジヨ  |
| 1597年 | 修練院が移設     |
| 1614年 | 徳川家康の      |
| 1637年 | 天草島原の乱     |
| 1805年 | 天草島原の乱     |
| 1873年 | 禁教令が解かれる   |
| 1934年 | 現在の崎津教会が建つ |

12 産島八幡宮

私、この宮野河内の  
産島で、  
皇子を産みました。



神功皇后

21~30 河浦は、ほかに指定文化財など多数点在しています。

# 1 崎津教会

1934(昭和9)年に建てられたゴシック様式の教会は、長崎の建築家・鉄川与助の作です。当時のハルブ神父の強い希望でキリシタン弾圧の象徴である「絵踏み」が行われた吉田庄屋役宅跡が選ばれ、絵踏が行われた場所に、現在の祭壇が配置されたといわれています。教会内部は国内でも数少ない畳敷きです。



# 2 崎津諏訪神社

崎津集落の約70%が潜伏キリシタンと発覚した1805(文化2)年の「天草崩れ」の舞台です。代官所の役人は、異物(異仏)取り調べのため、信仰遺物を境内に設置した箱に捨てるよう指示しました。

このような弾圧下においても、崎津の信者は「何方江参詣仕候而も矢張あんめりゆすと唱申候」(「あんめりゆす=アーメンアウス」)と唱えたとされています。

## クレソンがつたわる

明治初期にキリスト教の布教にあたった神父様が持ち込んだといわれているフランス原産のクレソンはパーテラゼリとも呼ばれていました。

## いちじくがつたわる

南蛮柿とも呼ばれるイチジクは、1590年にヨーロッパから日本に戻ったメスキータ神父によってはじめて河内浦に伝えられたそうです。

# 3 今富神社

1705(宝永2)年に肥後国阿蘇宮より分祀。今富の潜伏キリシタン取り締まりの舞台です。江戸時代は十五社宮と呼ばれ、阿蘇12神と八幡大神、天照大御神、春日大明神の3神が祀られています。今富では、禁教が解かれても潜伏キリシタンの多くはカトリックへ復帰せず、先祖から伝わるかくれキリシタン時代の儀式を信仰したといわれています。現在はかくれキリシタンは存在せず、神道や仏教徒へ改宗しています。



# 4 根引の子部屋

1883(明治16)年にフェリエ神父は民家を借りて孤児達を収容していましたが、1887(明治20)年、根引山を開墾して孤児院(子部屋)を開設し、大正6年まで続いていました。その跡には、十字架の道行と子部屋跡が完成。今ではカトリック教徒の巡礼地となっています。

# 5 神父道

1823(文政6)年に描かれた「天草崎津港近郷海浜要図」(九州大学所蔵)にはこの神父道を大江道と記しており、「天草郡公料私領御領主御支配交代年曆鑑」には、こうした村々を繋ぐ道が描かれています。崎津の「メゴイナイ」と呼ばれる行商はこうした峠道を利用して生活物資を運搬していました。



# 6 遠見番所跡

天草・島原の乱のあと、天草の代官となった鈴木重成が1641(寛永18)年に富岡付、大江付、魚貫崎付の3カ所に遠見番所を設けました。その後1717(享保2)年、代官七郎左衛門が新たに牛深と崎津に増設し、天草西海岸に現れる海賊船などに備えました。見張り番所は崎津湾口の突端にあり、のろし台はその山上にありましたが現在は空地となっています。

# 7 海上マリア像

崎津教会に近い岬に海に向かって佇むマリア像。静かな時・荒天の日ここを行き来する船人、漁人達に海の道しるべ、心の灯となるよう多くの人々の協力を得て建てられました。



# 8 琉球王使節船漂着地

1790(寛政2)年、琉球王中山王の使節船が祝賀のために薩摩に向かう途中、暴風雨に遭いこの落戸の浜に漂着。この一行が御礼として「杉ようかん」の製法を伝授したといわれています。

# 9 アルメイダ上陸地

河内浦城主、天草鎮尚(ドン・ミゲル)は豊後国領主、大友宗麟にない、海外貿易の拠点として南蛮船碇泊所を開き、アルメイダを招きました。アルメイダは、天草にキリスト教を伝道した最初の人物で、1569(永禄12)年に河内浦でも布教を始めました。



# 10 天草コレジヨ館

1階のコレジヨ展示室には、16世紀以降に河内浦の地に伝えられた南蛮文化の資料を展示。日本初の活版印刷による天草本複製や天正遣欧少年使節団が持ち帰ったグーテンベルク印刷機(複製)は必見です。ほかにも、南蛮船模型、西洋古楽器の複製、「天草本伊曾保物語」をモチーフにした人形「ESOPOの宝箱(gaju作)」が展示されています。2階には世界平和大使人形の館が併設され、世界の平和を願う57か国の民族衣装を着た人形が展示されています。 ※天草の炭鉱王 田中榮蔵氏と天草出身の政治家 園田直氏を紹介する郷土先達資料展示室も併設されています。

# 11 古江大神宮

宮のそばには古江大神宮の発祥の地である「正徳享保の頃、伊勢宮の分身たる剣先金幣降下せる」巨石と伝わる「天下りの石」があります。古江大神宮は縁結びの神様といわれており、戦後までは満月に男女でお参りするお祭りがありました。



# 12 産島八幡宮

産島八幡宮がある産島は、神功皇后が朝鮮に出兵された時にこの島で応神天皇をご出産になったとか、あるいは、景行天皇が熊襲討伐のため九州に来られた際、女官の一人が産産されたなど伝説があります。この時、湧き出た泉の水はその出産のときに産湯として使われたといい、今でも安産祈願に御利益があるといわれています。

# 13 河内浦城跡

キリスト教伝来とともに南蛮文化が栄えた中世、天草下島南部を治めた天草氏の居城。築城された正確な年代は不詳ですが、中国や東南アジアの陶磁器の出土遺物から、15世紀後半から16世紀中頃と考えられています。ルイス・フロイス著「日本史」には天草氏に布教した記録があります。



# 崇圓寺

天草山と号し、1645(正保2)年に代官鈴木重成が創建した浄土宗の寺で天草四本寺の一つ。開基は筑後善導寺から招かれた伝誉上人。上田家文書「天草島鏡」に「1648(慶安1)年、平床村のうち寺領30石を与えられた」と記録されており、天草下島中南部の教化に中心的役割を果たしたといわれています。

# 14 安養寺

1615(元和1)年、肥前国寺沢広高の家臣で、河内浦の郡代川崎伊右衛門が栄念上人を唐津から招聘して、浄土真宗寺として建立。天草南部一帯42ヶ村の檀家を賜り、仏教復興に尽くしました。フロイスの日本史に「家屋につなげてコレジヨをたてた」という記録があり、天草のほかの寺にも教会が建てられていることから、この地は宣教師養成のための大学校、天草コレジヨ跡の推定地といわれています。



# 15 信福寺

1313(正和2)年、天台宗として開山され天草氏の祈禱所でしたが、1569(永禄12)年、キリスト教導入による天草一族の内乱により寺は破壊されました。このとき天草鎮尚の奥方の勧請されたものと伝わる石地藏は首欠け地藏となり、現在木彫りの首がすげられています。その後、当寺は1612(慶長17)年に浄土宗として開山。1648(慶安1)年には、寺領5石が与えられました。

# 16 下田城跡 天草氏歴代墓地

志岐文書1233(貞永2)年の史料によると、天草氏は本拠から天草下島南東部一帯を領し中心地の河内浦に居住していました。城は13世紀前半に築城されたことが考えられます。城跡周辺には石塔群(五輪塔等)が残っており、地名も城山と言われています。

# 17 お大師様と七鬼神様

享保年間(1716~1735)、教良木のお大師堂より持参し祭ったとされ、裏山を一巡する表道には薬師如来、千手観音など八十八体の石仏があります。また、御堂の隣には七鬼神様が祀られており、悪厄除けの鬼神といわれています。



# 18 竜王神様

御神体の石像は竜を背負っておられます。地区の人は「背負っておられるのは竜ではなく、「うなぎ」である」といい、その昔近くの川原から大うなぎが現れ、しばしば通行人をおびやかしたのでこれを鎮めるために竜神様が祀られたとのことです。台座には、1700(元禄13)年に奉造立諸願成就のため、肥前石工が建立したと書かれています。



# 19 薬師堂の石塔群

地元で「城山」または「城の首」と呼ばれている小丘陵があります。ここに建つ薬師堂には15~16世紀のものと思われる石塔が残っています。この時代に鹿児島県の長島の支配権を握って交易の利を得ていたと考えられる天草尚種が、この地に船手奉行の役宅を設け、長島経営のルートとして、「蔵之浦」に出入りする船舶を監視していたと推定されます。ちなみに長島で現在もフェリーが行き来している港の名前は「蔵之元」。

# 20 宗徒様の供養塔

キリスト教弾圧で処刑された宗徒の遺骸が漂着し、それを区民が哀れんで供養塔を立て祀ったという悲しいお話。今もその名残か供養塔は満潮時、宮野河内の女橋地区の沖に、ひっそり浮かんでいます。

